



四半期報告書

(第81期 第3四半期)

自 平成29年10月1日

至 平成29年12月31日

オムロン株式会社

第81期 第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）

四半期報告書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項の規定に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成30年2月9日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書では、四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

オムロン株式会社

目 次

頁

第81期 第3四半期 四半期報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【ライツプランの内容】	6
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(6) 【大株主の状況】	7
(7) 【議決権の状況】	7
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
(1) 【四半期連結貸借対照表】	9
(2) 【四半期連結損益計算書】	11
(3) 【四半期連結包括損益計算書】	13
(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	15
2 【その他】	41
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	42
四半期レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第81期 第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	オムロン株式会社
【英訳名】	OMRON Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 義仁
【本店の所在の場所】	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801番地
【電話番号】	京都(075)344-7070
【事務連絡者氏名】	執行役員 グローバル理財本部長 大上 高 充
【最寄りの連絡場所】	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801番地
【電話番号】	京都(075)344-7070
【事務連絡者氏名】	執行役員 グローバル理財本部長 大上 高 充
【縦覧に供する場所】	オムロン株式会社東京事業所 (東京都港区港南二丁目3番13号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第80期 第3四半期連結 累計期間	第81期 第3四半期連結 累計期間	第80期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	568,687 (197,095)	624,853 (214,326)	794,201
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期(当期)純利益 (百万円)	44,075	62,510	65,492
当社株主に帰属する四半期(当期) 純利益 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	30,616 (14,767)	46,673 (16,369)	45,987
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	28,622	68,279	39,021
株主資本 (百万円)	465,877	521,036	469,029
総資産額 (百万円)	687,540	742,676	697,701
基本的1株当たり当社株主に帰属す る四半期(当期)純利益 (円) (第3四半期連結会計期間)	143.19 (69.07)	218.94 (77.05)	215.09
希薄化後1株当たり当社株主に帰属 する四半期(当期)純利益 (円)	143.19	-	215.09
株主資本比率 (%)	67.8	70.2	67.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	44,536	46,307	77,875
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△8,235	△44,459	△15,041
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△15,174	△22,717	△15,012
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	100,792	106,660	126,026

(注) 1 当社の連結財務諸表および四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

2 売上高には、消費税等は含まれていない。

3 第81期第3四半期連結累計期間の希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

4 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、前年同期比で大幅な増収増益となった。主力のインダストリアルオートメーションビジネス(制御機器事業)における大幅増収が全社の売上高の増加を牽引した。また、生販開一体となり全社で推進してきた収益構造改革の効果により、売上総利益率は前年同期比2.3ポイント改善の41.7%となった。中長期にわたる持続的な成長に向けた投資を実行しながら、大幅な増益を達成した。

その結果として当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は6,248億53百万円(前年同期比9.9%増)となった。営業利益(※)は643億65百万円(前年同期比40.5%増)、法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益は625億10百万円(前年同期比41.8%増)、当社株主に帰属する四半期純利益は466億73百万円(前年同期比52.4%増)となった。

なお、当第3四半期連結累計期間における対米ドルおよび対ユーロの平均レートはそれぞれ111.7円(前年同期比4.8円の円安)、127.9円(前年同期比9.2円の円安)となった。

(※) 「営業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費及び一般管理費」および「試験研究開発費」を控除したものを表示している。

オペレーティング・セグメントの業績は、次のとおりである。

経営管理区分の見直しにより、第1四半期連結会計期間より、「ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス」傘下の一部を「その他事業」の事業セグメントに含め開示している。これに伴い前第3四半期連結累計期間の数値についても新管理区分に組み替えて表示している。

① インダストリアルオートメーションビジネス(制御機器事業)

日本においては、世界的な半導体関連投資の拡大による製造装置の投資需要の高まりと、自動車業界での投資需要の増加を捉え、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく増加した。

海外においては、米州では、半導体関連投資需要等が堅調に推移した。欧州では、政局の安定に伴う緩やかな景気回復に加えて、機械輸出が好調だったことから、注力業界を中心に需要が拡大した。また中華圏・アジアでは、デジタル業界で急速な投資拡大が見られた。これらの需要や投資の拡大に対応し、リソースの増強ならびに顧客への最適なソリューション提案活動を実施したことに加え、買収企業の売上高が寄与したことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、2,969億16百万円(前年同期比21.7%増)(うち外部顧客に対する売上高は、2,920億53百万円(前年同期比21.7%増))、セグメント利益は売上高の増加に加え、幅広い商品群とソリューションを活かした販売活動の効果により、552億42百万円(前年同期比49.0%増)となった。

② エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス(電子部品事業)

日本においては、自動車業界向けの新規商談拡大や好調な新車販売、アミューズメント業界向けの需要を確実に捉えたこと等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

海外においては、中華圏では、内陸都市部における所得や生活水準の向上に伴い、高機能家電市場の需要増を捉えたことから、民生業界向けが好調に推移した。アジアでは、自動二輪向けの需要増や家電向けで採用商品が増えたことにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は増加した。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、1,201億96百万円（前年同期比15.2%増）（うち外部顧客に対する売上高は、777億17百万円（前年同期比12.8%増））、セグメント利益は国内外売上高の増加に加え、内部売上高も増加したことにより、108億28百万円（前年同期比51.5%増）となった。

③ オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス(車載事業)

日本においては、当社製品を搭載した車種のモデルチェンジによる影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減少した。

海外においては、米州では、北米における自動車生産台数の減少や当社製品を搭載した車種のモデルチェンジによる影響により売上高は前年同期比で減少した。アジアでは、インドでの好調な自動車生産やインドネシアの自動二輪向けの販売増などにより、売上高は前年同期比で増加した。これらの結果に為替のプラス影響が加わり、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、989億35百万円（前年同期比1.7%増）（うち外部顧客に対する売上高は、975億53百万円（前年同期比0.7%増））、セグメント利益は売上高は横ばいとどまる一方で、研究開発費の増加により、42億75百万円（前年同期比12.4%減）となった。

④ ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス(社会システム事業)

駅務システム事業においては、更新需要が横ばいに推移した。交通管制・道路管理システム事業については、幹線道路関連の端末更新需要が低調だったものの、品揃え強化に取り組んだことにより、端末商品の販売は横ばいで推移した。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で横ばいとなった。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、339億74百万円（前年同期比0.3%増）（うち外部顧客に対する売上高は、309億59百万円（前年同期比0.2%増））、セグメント損失は設計・生産の内作化など収益力強化の取り組みの結果、33億47百万円（前年同期は35億7百万円の損失）となった。

⑤ ヘルスケアビジネス(ヘルスケア事業)

日本においては、家庭向け健康医療機器については、オンラインチャネルでの販促活動の強化により血圧計と低周波治療器の販売が好調に推移した。しかしながら、平成28年12月に実施した医療機器販売子会社旧オムロンコーリン社の株式譲渡に伴い、医療機関向け機器の売上高が減少した結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減少した。

海外においては、米州では、米国でのオンラインチャネルでの販促活動および南米における取扱店拡大により、血圧計、ネブライザの販売が好調に推移した。欧州では、ロシアでの血圧計の販売が堅調に推移した。中華圏では、オンラインチャネルでの血圧計、ネブライザの販売が好調に推移した。アジアでは、インドやインドネシア等での取扱店拡大により、血圧計の販売が好調に推移した。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、822億35百万円（前年同期比7.9%増）（うち外部顧客に対する売上高は、820億33百万円（前年同期比8.0%増））、セグメント利益は売上高の増加と生産性向上により、101億80百万円（前年同期比34.3%増）となった。

⑥ その他（本社直轄事業）

その他のセグメントでは、新規事業の探索・育成と、社内カンパニーに属さない事業の育成・強化を本社直轄事業として担当している。

環境事業は、蓄電関連の商品拡充の効果は出ているものの、太陽光発電パネル向けパソコン需要の低迷により、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減少した。

電子機器事業は、無停電電源装置および電子機器の開発・生産受託サービスの需要が好調に推移し、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく増加した。

マイクロデバイス事業は、スマートフォン向けマイクロフォンの需要増加により、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

バックライト事業は、事業の最適化を更に進めていることから、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で大きく減少した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、491億53百万円（前年同期比17.7%減）（うち外部顧客に対する売上高は、416億41百万円（前年同期比20.3%減））、セグメント損失は11億24百万円（前年同期は13億10百万円の損失）となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物残高は、前期末に比べ193億66百万円減少し、1,066億60百万円となった。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の計上や売上債権の減少などにより、463億7百万円の収入（前年同期比17億71百万円の収入増）となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、資本的支出や事業買収などにより、444億59百万円の支出（前年同期比362億24百万円の支出増）となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや自己株式の取得などにより、227億17百万円の支出（前年同期比75億43百万円の支出増）となった。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はない。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、420億53百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	487,000,000
計	487,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成29年12月31日）	提出日現在 発行数（株） （平成30年2月9日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	213,958,172	213,958,172	東京証券取引所 （市場第一部） フランクフルト証券取引所 （フランクフルト証券取引 所には、預託証券の形式 による上場）	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のな い当社における標準とな る株式。 単元株式数 100株
計	213,958,172	213,958,172	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	—	213,958	—	64,100	—	88,771

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 568,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 213,146,900	2,131,469	同上
単元未満株式	普通株式 242,772	—	同上
発行済株式総数	213,958,172	—	—
総株主の議決権	—	2,131,469	—

(注) 1 「完全議決権株式（その他）」の「株式数」および「議決権の数」の中には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ200株および2個含まれている。

2 「完全議決権株式（その他）」の「株式数」および「議決権の数」の中には、役員報酬BIP信託および株式付与ESOP信託として保有する当社株式がそれぞれ770,100株および7,701個含まれている。

② 【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) オムロン株式会社	京都市下京区塩小路通堀川 東入南不動堂町801番地	568,500	—	568,500	0.27
計	—	568,500	—	568,500	0.27

(注) 当第3四半期会計期間末現在における当社保有の自己株式数は812,728株である。

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はない。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）および当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

区分	注記 番号	第80期 (平成29年3月31日)		第81期第3四半期 (平成29年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
資産の部					
流動資産					
現金及び現金同等物	(注記 I - F)	126,026		106,660	
受取手形及び売掛金		169,210		163,229	
貸倒引当金	(注記 I - F)	△1,320		△1,267	
たな卸資産	(注記 I - F)	109,404		143,501	
繰延税金	(注記 I - F)	19,123		—	
その他の流動資産	(注記 II - J, K, L)	13,461		21,827	
流動資産合計		435,904	62.5	433,950	58.4
有形固定資産					
土地	(注記 I - B, F, II - B, L)	25,550		25,747	
建物及び構築物		141,527		146,245	
機械その他		189,286		206,199	
建設仮勘定		6,104		8,345	
減価償却累計額		△234,852		△252,924	
有形固定資産合計		127,615	18.3	133,612	18.0
投資その他の資産					
のれん	(注記 I - B, F II - O)	30,385		41,574	
関連会社に対する投資及び貸付金	(注記 I - D)	25,303		26,354	
投資有価証券	(注記 I - B, F, II - A, L)	27,006		33,226	
施設借入保証金		6,907		7,353	
繰延税金	(注記 I - F)	21,101		36,158	
その他の資産	(注記 I - B, F II - O)	23,480		30,449	
投資その他の資産合計		134,182	19.2	175,114	23.6
資産合計		697,701	100.0	742,676	100.0

区分	注記 番号	第80期 (平成29年3月31日)		第81期第3四半期 (平成29年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
負債の部					
流動負債					
支払手形及び買掛金・未払金		89,362		89,822	
未払費用		39,354		36,244	
未払税金		6,994		4,318	
その他の流動負債	(注記Ⅰ－B, F, Ⅱ－J, K, L, M)	36,371		34,540	
流動負債合計		172,081	24.7	164,924	22.2
繰延税金	(注記Ⅰ－F)	763	0.1	681	0.1
退職給付引当金	(注記Ⅰ－B, F)	43,708	6.2	43,463	5.9
その他の固定負債	(注記Ⅱ－M)	10,392	1.5	10,524	1.4
負債合計		226,944	32.5	219,592	29.6
純資産の部					
株主資本					
資本金		64,100	9.2	64,100	8.6
普通株式					
授権株式数					
第80期					
第81期第3四半期	487,000,000株				
発行済株式数					
第80期					
第81期第3四半期	213,958,172株				
資本剰余金		99,138	14.2	99,415	13.4
利益準備金		17,813	2.5	19,826	2.7
その他の剰余金	(注記Ⅱ－N)	346,000	49.6	382,581	51.5
その他の包括利益(△損失)累計額	(注記Ⅱ－I)	△57,363	△8.2	△36,292	△4.9
為替換算調整額		△6,327		9,202	
退職年金債務調整額		△56,571		△54,816	
売却可能有価証券未実現損益		5,765		9,786	
デリバティブ純損益		△230		△464	
自己株式		△659	△0.1	△8,594	△1.1
第80期					
第81期第3四半期	152,836株				
	1,582,828株				
株主資本合計		469,029	67.2	521,036	70.2
非支配持分		1,728	0.3	2,048	0.2
純資産合計		470,757	67.5	523,084	70.4
負債及び純資産合計		697,701	100.0	742,676	100.0

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	第80期第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)			第81期第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)		
		金額 (百万円)		百分比 (%)	金額 (百万円)		百分比 (%)
売上高	(注記 I - F)		568,687	100.0		624,853	100.0
売上原価及び費用							
売上原価		344,718			364,095		
販売費及び一般管理費	(注記 I - F)	141,162			154,340		
試験研究開発費		36,992			42,053		
その他費用 (△収益) —純額—	(注記 II - A, B, E, P)	1,740	524,612	92.2	1,855	562,343	90.0
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益			44,075	7.8		62,510	10.0
法人税等	(注記 I - F, II - F)		13,223	2.4		16,335	2.6
持分法投資損益 (△利益)			△79	△0.0		△881	△0.1
四半期純利益			30,931	5.4		47,056	7.5
非支配持分帰属損益			315	0.0		383	△0.0
当社株主に帰属する四半期純利益			30,616	5.4		46,673	7.5
1株当たり利益	(注記 II - G)						
基本的							
当社株主に帰属する四半期純利益			143.19円			218.94円	
希薄化後							
当社株主に帰属する四半期純利益			143.19円			—	

【第3四半期連結会計期間】

区分	注記 番号	第80期第3四半期連結会計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)			第81期第3四半期連結会計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)		
		金額 (百万円)		百分比 (%)	金額 (百万円)		百分比 (%)
売上高	(注記 I - F)		197,095	100.0		214,326	100.0
売上原価及び費用							
売上原価		117,941			123,768		
販売費及び一般管理費	(注記 I - F)	47,327			54,918		
試験研究開発費		11,903			14,628		
その他費用 (△収益) —純額—	(注記 II - A, B, E, P)	△505	176,666	89.6	△456	192,858	90.0
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益			20,429	10.4		21,468	10.0
法人税等	(注記 I - F, II - F)		6,129	3.1		5,254	2.5
持分法投資損益 (△利益)			△575	△0.2		△334	△0.2
四半期純利益			14,875	7.5		16,548	7.7
非支配持分帰属損益			108	0.0		179	0.1
当社株主に帰属する四半期純利益			14,767	7.5		16,369	7.6
1株当たり利益	(注記 II - G)						
基本的							
当社株主に帰属する四半期純利益			69.07円			77.05円	
希薄化後							
当社株主に帰属する四半期純利益			69.07円			—	

(3) 【四半期連結包括損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		第80期第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	第81期第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
四半期純利益		30,931	47,056
その他の包括利益(△損失) 一税効果考慮後	(注記Ⅱ－Ⅰ)		
為替換算調整額		△1,962	15,681
退職年金債務調整額		2,512	1,755
売却可能有価証券未実現損益		△2,203	4,021
デリバティブ純損益		△656	△234
その他の包括利益(△損失)計		△2,309	21,223
四半期包括利益		28,622	68,279
非支配持分に帰属する四半期包括利益		223	535
当社株主に帰属する四半期包括利益	(注記Ⅰ－F)	28,399	67,744

【第3四半期連結会計期間】

		第80期第3四半期連結会計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	第81期第3四半期連結会計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益		14,875	16,548
その他の包括利益(△損失) 一税効果考慮後	(注記Ⅱ－Ⅰ)		
為替換算調整額		29,513	5,247
退職年金債務調整額		1,074	580
売却可能有価証券未実現損益		2,452	2,269
デリバティブ純損益		△970	△125
その他の包括利益計		32,069	7,971
四半期包括利益		46,944	24,519
非支配持分に帰属する四半期包括利益		282	298
当社株主に帰属する四半期包括利益	(注記Ⅰ－F)	46,662	24,221

(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	第80期第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)		第81期第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	
	金額 (百万円)		金額 (百万円)	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー				
1 四半期純利益		30,931		47,056
2 営業活動によるキャッシュ・フローと四半期純利益の調整				
(1) 減価償却費	21,474		21,390	
(2) 固定資産除売却損 (純額)	384		197	
(3) 長期性資産及び売却予定資産の減損	12,205		139	
(4) 投資有価証券売却益 (純額)	△142		△371	
(5) 事業売却損 (△益)	△3,686		14	
(6) 投資有価証券の減損	312		59	
(7) 退職給付信託設定益	△6,161		—	
(8) 退職給付引当金	2,791		2,088	
(9) 繰延税金	△1,161		225	
(10) 持分法投資損益 (△利益)	△79		△881	
(11) 資産・負債の増減				
① 受取手形及び売掛金の減少	1,790		12,092	
② たな卸資産の増加	△18,860		△27,420	
③ その他の資産の減少 (△増加)	2,150		△5,545	
④ 支払手形及び買掛金・未払金の増加 (△減少)	5,776		△861	
⑤ 未払税金の減少	△3,340		△2,870	
⑥ 未払費用及びその他流動負債の増加	443		14	
(12) その他 (純額)	△291		981	△749
営業活動によるキャッシュ・フロー		44,536		46,307
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
1 投資有価証券の売却及び償還による収入		317		811
2 投資有価証券の取得		△391		△616
3 資本的支出		△16,238		△23,839
4 施設借入保証金の増加 (純額)		△33		△365
5 有形固定資産の売却による収入		819		373
6 関連会社に対する投資及び貸付金の減少		30		—
7 事業売却 (現金流出額との純額)		7,187		△427
8 事業買収 (現金取得額との純額)		—		△20,466
9 その他 (純額)		74		70
投資活動によるキャッシュ・フロー		△8,235		△44,459
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
1 短期債務の増加 (純額)		187		777
2 親会社の支払配当金		△14,539		△15,378
3 非支配株主への支払配当金		△297		△215
4 自己株式の取得		△8		△7,935
5 非支配株主との資本取引による支出額		△470		—
6 その他 (純額)		△47		34
財務活動によるキャッシュ・フロー		△15,174		△22,717
IV 換算レート変動の影響		△3,245		1,503
現金及び現金同等物の増減額		17,882		△19,366
期首現金及び現金同等物残高		82,910		126,026
四半期末現金及び現金同等物残高		100,792		106,660
営業活動によるキャッシュ・フローの追記				
1 支払利息の支払額		93		104
2 法人税等の支払額		18,439		18,786
キャッシュ・フローを伴わない投資及び財務活動の追記				
1 資本的支出に関連する債務		569		908
2 退職給付信託へ抛出した投資有価証券の公正価額		8,487		—

四半期連結財務諸表注記事項

I 重要な会計方針の概要

A (四半期) 連結財務諸表の作成基準

(四半期) 連結財務諸表は、欧州において発行した預託証券にかかる要求に基づき、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

当社は、欧州にて昭和45年2月7日、香港にて昭和48年10月13日、時価発行による公募増資を実施した。この時の預託契約に基づき、昭和42年3月31日に終了した連結会計年度より米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成していたことを事由として、昭和53年3月30日に「連結財務諸表規則取扱要領第86に基づく承認申請書」を大蔵大臣へ提出し、同年3月31日付の蔵証第496号により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成することにつき承認を受けている。そのため、連結財務諸表については昭和53年3月31日に終了した連結会計年度より継続して、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して開示している。

なお、当社は米国証券取引委員会への登録は行っていない。

B 我国の連結財務諸表原則および(四半期) 連結財務諸表規則に準拠して作成する場合との主要な相違の内容

1 有価証券および投資

提出会社の(四半期) 財務諸表では、有価証券の評価について「金融商品に関する会計基準」を適用している。

(四半期) 連結財務諸表では、財務会計基準審議会(FASB) 会計基準書第320号「投資—負債証券及び持分証券」を適用している。法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3 四半期連結累計期間は1,416百万円(利益)、第81期第3 四半期連結累計期間は6百万円(利益)、第80期第3 四半期連結会計期間は0百万円(損失)、第81期第3 四半期連結会計期間は0百万円(利益)である。

2 退職給付引当金

提出会社の(四半期) 財務諸表では、「退職給付に係る会計基準」を適用している。(四半期) 連結財務諸表ではFASB 会計基準書第715号「報酬—退職給付」の規定に従って計上している。法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3 四半期連結累計期間974百万円(利益)、第81期第3 四半期連結累計期間1,161百万円(利益)、第80期第3 四半期連結会計期間325百万円(利益)、第81期第3 四半期連結会計期間387百万円(利益)である。

3 有給休暇の処理

(四半期) 連結財務諸表では、FASB 会計基準書第710号-10-25「報酬—有給休暇」に基づいて従業員の未使用有給休暇に対応する人件費負担相当額を未払計上している。法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3 四半期連結累計期間32百万円(利益)、第80期第3 四半期連結会計期間32百万円(利益)、第81期第3 四半期連結累計(会計) 期間において、なしである。

4 のれんおよびその他の無形資産

(四半期) 連結財務諸表では、FASB 会計基準書第350号「無形資産—のれん及びその他」により、のれんおよび耐用年数の特定できない無形資産については償却に替え少なくとも年1回の減損判定を実施している。我国の連結財務諸表原則および(四半期) 連結財務諸表規則に準拠してのれん(持分法適用会社に発生したものを含む)の償却期間を5年とした場合と比較して、法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3 四半期連結累計期間4,273百万円(利益)、第81期第3 四半期連結累計期間4,978百万円(利益)、第80期第3 四半期連結会計期間1,469百万円(利益)、第81期第3 四半期連結会計期間2,024百万円(利益)である。

5 長期性資産

提出会社の（四半期）財務諸表では、土地は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）および「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成13年6月29日公布法律第94号）を適用している。また、固定資産の減損については、「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））および「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成15年10月31日企業会計基準適用指針第6号）を適用している。（四半期）連結財務諸表ではFASB会計基準書第360号「有形固定資産」に基づいて、長期性資産および特定の識別できる無形資産について帳簿価額を回収できない恐れのある事象または状況の変化が起きた場合には、減損についての検討を行い、減損が生じていると考えられる場合には、帳簿価額が公正価額を上回る額を減損額として認識している。法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3四半期連結累計期間13百万円（利益）、第81期第3四半期連結累計期間13百万円（利益）、第80期第3四半期連結会計期間4百万円（利益）、第81期第3四半期連結会計期間5百万円（利益）である。

6 株式報酬

提出会社の（四半期）財務諸表では、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」を適用している。（四半期）連結財務諸表では、FASB会計基準書第718号「報酬—株式報酬」を適用している。法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第80期第3四半期連結累計期間はなし、第81期第3四半期連結累計期間132百万円（利益）、第80期第3四半期連結会計期間はなし、第81期第3四半期連結会計期間78百万円（利益）である。

C 連結の範囲

（四半期）連結財務諸表には、全ての子会社が含まれている。

子会社：オムロンヘルスケア(株)、OMRON EUROPE B.V. ほか	第80期第3四半期末	計166社
	第81期第3四半期末	計168社
	第80期末	計164社

なお、当社は、当社および子会社が主たる受益者である変動持分事業体を連結の範囲に含めているが、連結している信託勘定は連結子会社数に含めていない。

我国の（四半期）連結財務諸表規則によった場合と比較して重要な差はない。

D 持分法の適用

全ての関連会社に対する投資額は、持分法によって計上している。

持分法適用関連会社：日立オムロンターミナルソリューションズ(株) ほか	第80期第3四半期末	計15社
	第81期第3四半期末	計17社
	第80期末	計16社

我国の（四半期）連結財務諸表規則によった場合と比較して重要な差はない。

E 子会社の事業年度

事業年度の末日が連結決算日と異なる子会社は第81期第3四半期末46社（第80期第3四半期末43社、第80期末42社）であり、これらのうち、44社（第80期第3四半期末41社、第80期末40社）については連結決算日の財務諸表を用い、それ以外の子会社については子会社の決算日の財務諸表を用いて四半期連結財務諸表を作成している。各期においてこの決算日の相違により生じた重要な取引の差異はない。

F 会計処理基準

1 会計上の見積り

米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠した（四半期）連結財務諸表作成に当たり、（四半期）期末日現在の資産・負債の金額、偶発的な資産・負債の開示および当該（四半期）期間の収益・費用の金額に影響を与えるさまざまな見積りや仮定を用いており、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合がある。

2 現金及び現金同等物

現金同等物は、取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い投資からなっており、定期預金、商業シヤル・ペーパー、現先短期貸付金および追加型公社債投資信託の受益証券等を含んでいる。

3 貸倒引当金

貸倒引当金は主として当社および子会社の過去の貸倒損失実績および債権残高に対する潜在的損失の評価に基づいて、妥当と判断される額を計上している。

4 有価証券および投資

当社および子会社の保有する市場性のある負債証券および持分証券は、すべて売却可能有価証券に区分される。売却可能有価証券は未実現損益を反映させた公正価値で評価し、未実現損益は関連税額控除後の金額で「売却可能有価証券未実現損益」に表示している。

なお、売却可能有価証券については、公正価値の下落が一時的でないといみなされる場合、当該四半期末もしくは連結会計年度末において、公正価値まで評価減を行い、評価減金額は当該期間の損益に含めている。売却可能有価証券の公正価値の下落が一時的であるかどうかを下落の期間や程度、発行体の財政状態や業績の見通しあるいは公正価値の回復が予想される十分な期間にわたって保有する意思等をもとに判断している。

その他の投資は、取得原価により評価し、減損の有無を定期的に検討している。売却原価の算定は、移動平均法によっている。

5 たな卸資産

たな卸資産は国内では主として先入先出法による低価法、海外では主として移動平均法による低価法で計上している。

6 有形固定資産

有形固定資産は取得原価で計上している。減価償却費はその資産の見積耐用年数をもとに、主として定率法（ただし、海外子会社の一部は定額法）で算出している。建物及び構築物の見積耐用年数は概ね3年から50年、機械その他の見積耐用年数は概ね2年から15年である。減価償却費の金額は、第80期第3四半期連結累計期間17,266百万円、第81期第3四半期連結累計期間16,676百万円、第80期第3四半期連結会計期間5,490百万円、第81期第3四半期連結会計期間5,925百万円である。

7 のれんおよびその他の無形資産

F A S B 会計基準書第350号「無形資産－のれん及びその他」を適用している。当基準書は、のれんの会計処理について償却に替え、少なくとも年1回の減損判定を行うことを要求している。また、認識された無形資産について、それぞれの見積耐用年数で償却し、減損判定を行うことを要求している。認識された無形資産のうち耐用年数の特定できないものは、償却は行われず、少なくとも年1回の減損判定が行われる。

8 長期性資産

長期性資産について、当該資産の帳簿価額を回収できない恐れのある事象または状況の変化が起きた場合には、減損についての検討を行っている。保有して使用する資産の回収可能性は、当該資産の帳簿価額を当該資産から生み出されると期待される現在価値への割引前のキャッシュ・フロー純額と比較することにより判断している。減損が生じていると考えられる場合には、帳簿価額が公正価値を上回る額を減損額として認識することになる。売却以外の方法により処分する資産については、処分するまで保有かつ使用するとみなされる。売却により処分する資産については、帳簿価額または売却費用控除後の公正価値のいずれか低い価額で評価している。

9 退職給付引当金

退職給付引当金は、F A S B 会計基準書第715号「報酬－退職給付」に準拠し、従業員の退職給付に備えるため、当期末における予測給付債務および年金資産の公正価値に基づき計上および開示している。なお、四半期連結累計期間は、連結会計年度末における予測給付債務および年金資産の見込額等に基づき四半期連結累計期間において発生していると認められる額を計上している。また、退職給付引当金には当社および子会社の取締役および監査役に対する退職給付に備える引当額を含んでいる。

10 収益の認識

契約に関する説得力のある証拠の存在、商品が配達され、所有権および所有によるリスク負担が顧客に移転されたこと、またはサービスの提供が行われたこと、売価が固定または確定可能であること、債権の回収可能性が確からしいことのすべての条件を満たした場合に収益を認識している。

11 広告宣伝費

広告宣伝費は、発生時に費用認識しており、「販売費及び一般管理費」に含めて表示している。広告宣伝費の金額は、第80期第3四半期連結累計期間5,779百万円、第81期第3四半期連結累計期間7,017百万円、第80期第3四半期連結会計期間2,173百万円、第81期第3四半期連結会計期間3,093百万円である。

12 発送費および取扱手数料

発送費および取扱手数料は、「販売費及び一般管理費」に含めて表示している。発送費および取扱手数料の金額は、第80期第3四半期連結累計期間6,644百万円、第81期第3四半期連結累計期間8,188百万円、第80期第3四半期連結会計期間2,230百万円、第81期第3四半期連結会計期間3,383百万円である。

13 法人税等

四半期連結累計期間の税金費用は、法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益に見積実効税率を乗じて計算している。当該見積実効税率は、四半期連結累計期間を含む連結会計年度の見積税金費用と見積法人税等、持分法投資損益控除前当期純利益に基づき算出している。

繰延税金は税務上と会計上との間の資産および負債の一時的差異、ならびに繰越欠損金および繰越税額控除に関連する将来の見積税効果を反映している。繰越欠損金や繰越税額控除に対する税効果は、将来において実現可能性があると認められる部分について認識している。税率の変更に伴う繰延税金資産および繰延税金負債への影響は、その税率変更に関する法律の制定日の属する連結会計年度において損益認識している。

米国における改正税制の下で、FASB会計基準書第740号「法人所得税」および米国証券取引委員会職員会計公報（SEC Staff Accounting Bulletin）118号「TCJAの法人会計への影響」により記録および開示を要求されている会計処理をすべての重要な点において完了し、その影響額については注記Ⅱ-Fに記載している。

当該会計処理は、現時点において入手可能な最善の見積りに基づいて行っており、連結財務諸表に重要な影響を及ぼすような暫定的な金額はないと考えている。

FASB会計基準書第740号「法人税等の不確実性に関する会計処理」を適用している。税務ポジションに関連する税務ベネフィットは、決算日において入手可能な情報に基づき、50%超の可能性で実現が期待される金額を計上している。

当社および一部の国内子会社は、日本の税法において認められる連結納税制度を適用している。

14 製品保証

製品保証費の見積りによる負債は、収益認識がなされた時点でその他の流動負債として計上している。この負債は、過去の実績、頻度、製品保証の平均費用に基づいている。

15 デリバティブ

FASB会計基準書第815号「デリバティブ及びヘッジ」を適用している。当基準書は、デリバティブ商品およびヘッジに関する会計処理および開示の基準を規定しており、すべてのデリバティブ商品を公正価額で連結貸借対照表上、資産または負債として認識することを要求している。

為替予約取引、通貨オプション取引および商品スワップ取引について、デリバティブ契約締結時点において、当社および子会社では予定取引に対するヘッジあるいは認識された資産または負債に関する受取または支払のキャッシュ・フローに対するヘッジ（キャッシュ・フロー・ヘッジ）に指定する。当社および子会社では、リスクマネジメントの目的およびさまざまなヘッジ取引に対する戦略と同様に、ヘッジ手段とヘッジ対象の関係も正式に文書化している。この手順は、キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定されたすべてのデリバティブ商品を連結貸借対照表上の特定の資産および負債または特定の確定契約あるいは予定取引に関連付けることを含んでいる。当社および子会社の方針によると、すべての為替予約取引、通貨オプション取引および商品スワップ取引は、ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動を相殺することに対し、高度に有効でなくてはならない。

ヘッジ対象が高度に有効であり、かつ、キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定および認定されたデリバティブ商品の公正価額の変動は、指定されたヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動が損益に影響を与えるまで、「デリバティブ純損益」に計上される。

16 海外子会社の（四半期）財務諸表項目の本邦通貨への換算

海外子会社の（四半期）財務諸表は、FASB会計基準書第830号「外貨に関する事項」に基づいて資産・負債項目は（四半期）決算日の為替相場、損益項目は期中平均為替相場によって換算している。なお、換算によって生じた換算差額は「為替換算調整額」に計上している。

17 現金配当額

現金配当額は、翌事業年度の当初において開催される定時株主総会まで未承認であっても、それぞれの事業年度の利益処分として提示される額に従って連結財務諸表に計上している。

18 包括損益

F A S B 会計基準書第220号「包括利益」を適用している。包括損益は当社株主に帰属する四半期純損益および、為替換算調整額の変動、退職年金債務調整額の変動、売却可能有価証券未実現損益の変動ならびに、デリバティブ純損益の変動からなり、四半期連結包括損益計算書に記載している。

19 消費税等

消費税等については、税抜方式による会計処理を行っている。

20 繰延税金

第81期第1四半期連結会計期間よりF A S B 会計基準更新第2015-17「繰延税金の貸借対照表上の分類」を適用している。F A S B 会計基準更新第2015-17は、繰延税金資産および繰延税金負債を貸借対照表において非流動項目として表示することを要求している。F A S B 会計基準更新第2015-17の適用にあたり、過年度の連結財務諸表等を遡及的に修正していない。

なお、第80期末における流動区分の繰延税金資産および繰延税金負債は、それぞれ19,123百万円および32百万円である。

21 株式報酬

株式に基づく報酬の会計処理について、F A S B 会計基準書第718号「報酬－株式報酬」を適用している。当基準書に従い、株式に基づく報酬費用は付与日の公正価値に基づいて測定している。その費用は、権利確定期間にわたって認識している。

II 主な科目の内訳および内容の説明

A 有価証券および投資

売却可能有価証券および満期保有有価証券の取得原価または償却原価、総未実現利益・損失、公正価額は次のとおりである。

第80期末

売却可能有価証券

	原価 (注) (百万円)	総未実現利益 (百万円)	総未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
持分証券	7,218	12,333	△0	19,551

(注) 持分証券については取得原価を表示している。

満期保有有価証券

	償却原価 (百万円)	総未実現利益 (百万円)	総未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
負債証券	25	—	—	25

第80期末現在における満期保有有価証券に分類される負債証券の満期別情報は次のとおりである。

	原価 (百万円)	公正価額 (百万円)
1年以内	25	25
1年超5年以内	—	—
合計	25	25

第80期末時点において、継続して未実現損失を含んだ状態であった期間別の売却可能有価証券（持分証券）の総未実現損失と公正価額は次のとおりである。

	12ヶ月未満	
	公正価額 (百万円)	総未実現損失 (百万円)
持分証券	0	△0

(注) 継続して未実現損失を含んだ状態であった売却可能有価証券の総未実現損失について、未実現損失が継続的に発生している期間が比較的短期間であることおよびその他の関連する要因に基づいて一時的な公正価値の下落であると判断している。

第81期第3四半期末

売却可能有価証券

	原価 (注) (百万円)	総未実現利益 (百万円)	総未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
持分証券	7,091	18,223	—	25,314

(注) 持分証券については取得原価を表示している。

第81期第3四半期末現在において、満期保有有価証券に分類される負債証券はなしである。

第81期第3四半期末現在において、継続して未実現損失を含んだ状態であった売却可能有価証券（持分証券）はなしである。

売却可能有価証券に区分された持分証券について、市場価格の下落が一時的でないと考えられることにより認識した減損額は、第80期第3四半期連結累計期間は213百万円、第81期第3四半期連結累計期間はなしである。また、第80期第3四半期連結会計期間および第81期第3四半期連結会計期間はともにない。

第80期末および第81期第3四半期末現在における原価法により評価される市場性のない有価証券に対する投資額はそれぞれ6,736百万円および6,582百万円である。第80期末および第81期第3四半期末現在において上記投資額のうち、減損の評価を行っていない投資の簿価はそれぞれ6,684百万円および6,534百万円である。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価値を見積ることが実務上困難なことからその見積りを行っていないため、また投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったためである。

第80期末および第81期第3四半期末現在において、出資先の保有する債務に対する担保として、200百万円の投資有価証券を供している。

第80期第3四半期連結累計期間および第81期第3四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却額および売却益は次のとおりである。

	第80期第3四半期連結累計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結累計期間 (百万円)
売却額	247	570
売却益	142	373

第80期第3四半期連結会計期間および第81期第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却額および売却益は次のとおりである。

	第80期第3四半期連結会計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結会計期間 (百万円)
売却額	100	162
売却益	54	120

なお、第80期第3四半期連結累計期間における退職給付信託へ拋出した売却可能有価証券の公正価額は8,487百万円であり、退職給付信託設定益は6,161百万円である。退職給付信託設定益は四半期連結損益計算書上、「その他費用（△収益）—純額—」に含まれている。

B 長期性資産および売却予定資産の減損

第80期第3四半期連結累計期間において、その他のセグメントにおけるバックライト関連事業の事業環境の変化等を踏まえた事業計画の変更により、また、マイクロデバイス関連事業の収益性低下により、長期性資産の帳簿価額を回収する十分な将来キャッシュ・フローが得られないと判断し、第80期第3四半期連結累計期間において、それぞれ10,862百万円および1,068百万円の減損損失を計上した。

このうち、第80期第3四半期連結会計期間における計上額は、それぞれ128百万円および217百万円である。

また、ヘルスケアビジネスにおける売却予定資産の再評価により、第80期第3四半期連結累計期間において、275百万円の減損損失を計上した。

このうち、第80期第3四半期連結会計期間における減損損失の計上はない。

第81期第3四半期連結累計期間において、その他のセグメントにおけるバックライト事業の収益性低下により、また、マイクロデバイス関連事業の収益性低下により、それぞれ110百万円および29百万円の長期性資産に係る減損損失を計上した。このうち、第81期第3四半期連結会計期間における計上額は、それぞれ110百万円および1百万円である。

これらの減損損失は四半期連結損益計算書上、「その他費用（△収益）—純額—」に含まれている。

なお、グルーピングした資産の公正価値は、その他のセグメントにおける長期性資産については将来キャッシュ・フローの割引現在価値および鑑定評価額等を考慮して見積もっており、ヘルスケアビジネスにおける売却予定資産については契約額に基づいている。

C リース

当社および子会社は、重要なキャピタル・リース契約は行っていない。

D 退職給付費用

当社および子会社は、大部分の国内従業員を対象として退職一時金および退職年金制度を採用している。当該制度を採用している退職給付制度に係る期間退職給付費用は、次の項目により構成されている。

	第80期第3四半期連結累計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結累計期間 (百万円)
勤務費用	5,273	5,187
予測給付債務に係る利息費用	1,219	1,385
年金資産の期待収益	△3,536	△3,645
償却費用	3,038	2,519
合計	5,994	5,446

	第80期第3四半期連結会計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結会計期間 (百万円)
勤務費用	1,758	1,729
予測給付債務に係る利息費用	407	462
年金資産の期待収益	△1,180	△1,216
償却費用	1,013	840
合計	1,998	1,815

E その他費用（△収益）—純額—

第80期第3四半期連結累計期間および第81期第3四半期連結累計期間におけるその他費用（△収益）—純額—の内訳は次のとおりである。

	第80期第3四半期連結累計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結累計期間 (百万円)
固定資産除売却損（純額）	384	197
長期性資産及び売却予定資産の減損	12,205	139
退職給付信託設定益	△6,161	—
投資有価証券の減損	312	59
投資有価証券売却益（純額）	△142	△371
事業売却損（△益）	△3,686	14
受取利息（純額）	△398	△470
為替差損（△益）（純額）	△999	1,981
受取配当	△761	△663
その他（純額）	986	969
合計	1,740	1,855

第80期第3四半期連結会計期間および第81期第3四半期連結会計期間におけるその他費用（△収益）—純額—の内訳は次のとおりである。

	第80期第3四半期連結会計期間 (百万円)	第81期第3四半期連結会計期間 (百万円)
固定資産除売却損（純額）	217	82
長期性資産の減損	345	111
退職給付信託設定益	—	—
投資有価証券の減損	2	38
投資有価証券売却益（純額）	△54	△120
事業売却損（△益）	△156	—
受取利息（純額）	△142	△99
為替差損（△益）（純額）	△1,400	298
受取配当	△268	△294
その他（純額）	951	△472
合計	△505	△456

F 法人税等

米国における改正税制が平成29年12月22日に成立したことに伴い、当連結会計年度より適用される法人税率が変更された。これにより、第81期第3四半期連結累計期間および第81期第3四半期連結会計期間において繰延税金の取崩が396百万円生じ、法人税等が同額増加している。

G 1株当たり情報

当社は1株当たり利益の算出にあたり、FASB会計基準書第260号「1株当たり利益」を適用している。「当社株主に帰属する1株当たり四半期純利益」算出における分子、分母はそれぞれ次のとおりである。

なお、第80期第3四半期連結累計期間においては、新株予約権による希薄化効果はない。また、第81期第3四半期連結累計期間においては、潜在株式が存在しないため希薄化効果はない。

分子

	第80期第3四半期 連結累計期間 (百万円)	第81期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益	30,616	46,673
希薄化後当社株主に帰属する四半期純利益	30,616	—

	第80期第3四半期 連結会計期間 (百万円)	第81期第3四半期 連結会計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益	14,767	16,369
希薄化後当社株主に帰属する四半期純利益	14,767	—

分母

	第80期第3四半期 連結累計期間 (株式数)	第81期第3四半期 連結累計期間 (株式数)
加重平均による期中平均発行済普通株式数	213,808,215	213,180,406
希薄化後発行済普通株式数	213,808,215	—

	第80期第3四半期 連結会計期間 (株式数)	第81期第3四半期 連結会計期間 (株式数)
加重平均による期中平均発行済普通株式数	213,807,714	212,436,660
希薄化後発行済普通株式数	213,807,714	—

(注) 役員報酬BIP信託及び株式付与ESOP信託として保有する当社株式は、1株当たり情報の計算上、期中平均株式数の算定において控除する自己株式に含めている。(前第3四半期連結累計期間および前第3四半期連結会計期間はなし、当第3四半期連結累計期間385,050株、当第3四半期連結会計期間770,100株)

H 純資産

第80期第3四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分および純資産の帳簿価額の変動は次のとおりである。

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
第79期末残高	444,718	2,316	447,034
当社株主への配当金	△7,269	—	△7,269
非支配株主への配当金	—	△297	△297
非支配株主との資本取引及びその他	14	△484	△470
新株予約権の発行	23	—	23
自己株式の取得及びその他	△8	—	△8
四半期純利益	30,616	315	30,931
その他の包括利益 (△損失)	△2,217	△92	△2,309
第80期第3四半期末残高	465,877	1,758	467,635

第81期第3四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分および純資産の帳簿価額の変動は次のとおりである。

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
第80期末残高	469,029	1,728	470,757
当社株主への配当金	△8,080	—	△8,080
非支配株主への配当金	—	△215	△215
非支配株主との資本取引及びその他	1	—	1
自己株式の取得及びその他	△7,935	—	△7,935
株式に基づく報酬	277	—	277
四半期純利益	46,673	383	47,056
その他の包括利益 (△損失)	21,071	152	21,223
第81期第3四半期末残高	521,036	2,048	523,084

I その他の包括利益（△損失）累計額

第80期第3四半期連結累計期間および第81期第3四半期連結累計期間における非支配持分を含むその他の包括損益の項目別の税効果の影響額および組替修正額は、次のとおりである。

	第80期第3四半期連結累計期間 (百万円)			第81期第3四半期連結累計期間 (百万円)		
	税効果 考慮前	税効果	税効果 考慮後	税効果 考慮前	税効果	税効果 考慮後
為替換算調整額						
期首	3,192	△651	2,541	△6,058	△269	△6,327
当期発生為替換算調整額	△1,962	—	△1,962	15,681	—	15,681
当期純変動額	△1,962	—	△1,962	15,681	—	15,681
非支配持分に帰属するその他の包括損失（△利益）	92	—	92	△152	—	△152
期末	1,322	△651	671	9,471	△269	9,202
退職年金債務調整額						
期首	△104,863	40,338	△64,525	△93,358	36,787	△56,571
当期発生退職年金債務調整額	220	△55	165	△2	1	△1
実現額の当期損益への組替修正額	3,402	△1,055	2,347	2,545	△789	1,756
当期純変動額	3,622	△1,110	2,512	2,543	△788	1,755
期末	△101,241	39,228	△62,013	△90,815	35,999	△54,816
売却可能有価証券未実現損益						
期首	21,466	△9,582	11,884	12,598	△6,833	5,765
未実現利益（△損失）当期発生額	2,897	△898	1,999	6,201	△1,922	4,279
実現額の当期損益への組替修正額	△6,090	1,888	△4,202	△373	115	△258
当期純変動額	△3,193	990	△2,203	5,828	△1,807	4,021
期末	18,273	△8,592	9,681	18,426	△8,640	9,786
デリバティブ純損益						
期首	△136	32	△104	△319	89	△230
未実現利益（△損失）当期発生額	687	△214	473	△1,477	458	△1,019
実現額の当期損益への組替修正額	△1,637	508	△1,129	1,138	△353	785
当期純変動額	△950	294	△656	△339	105	△234
期末	△1,086	326	△760	△658	194	△464
合計（その他の包括利益（△損失）累計額）						
期首	△80,341	30,137	△50,204	△87,137	29,774	△57,363
未実現利益（△損失）当期発生額	1,842	△1,167	675	20,403	△1,463	18,940
実現額の当期損益への組替修正額	△4,325	1,341	△2,984	3,310	△1,027	2,283
当期純変動額	△2,483	174	△2,309	23,713	△2,490	21,223
非支配持分に帰属するその他の包括損失（△利益）	92	—	92	△152	—	△152
期末	△82,732	30,311	△52,421	△63,576	27,284	△36,292

なお、売却可能有価証券未実現損益の実現額の当期損益への組替修正額は、「その他費用（△収益）—純額—」に含まれている。退職年金債務調整額の実現額の当期損益への組替修正額は、退職給付費用および「その他費用（△収益）—純額—」に含まれている。デリバティブ純損益の実現額の当期損益への組替修正額は、「売上原価」および「その他費用（△収益）—純額—」に含まれている。税効果については、「法人税等」に含まれている。

第80期第3四半期連結会計期間および第81期第3四半期連結会計期間における非支配持分を含むその他の包括損益の項目別の税効果の影響額および組替修正額は、次のとおりである。

	第80期第3四半期連結会計期間 (百万円)			第81期第3四半期連結会計期間 (百万円)		
	税効果 考慮前	税効果	税効果 考慮後	税効果 考慮前	税効果	税効果 考慮後
為替換算調整額						
期首	△28,017	△651	△28,668	4,343	△269	4,074
当期発生為替換算調整額	29,513	—	29,513	5,247	—	5,247
当期純変動額	29,513	—	29,513	5,247	—	5,247
非支配持分に帰属するその他の包括損失(△利益)	△174	—	△174	△119	—	△119
期末	1,322	△651	671	9,471	△269	9,202
退職年金債務調整額						
期首	△102,784	39,697	△63,087	△91,655	36,259	△55,396
当期発生退職年金債務調整額	166	△42	124	△0	0	△0
実現額の当期損益への組替修正額	1,377	△427	950	840	△260	580
当期純変動額	1,543	△469	1,074	840	△260	580
期末	△101,241	39,228	△62,013	△90,815	35,999	△54,816
売却可能有価証券未実現損益						
期首	14,720	△7,491	7,229	15,137	△7,620	7,517
未実現利益(△損失)当期発生額	3,607	△1,118	2,489	3,409	△1,057	2,352
実現額の当期損益への組替修正額	△54	17	△37	△120	37	△83
当期純変動額	3,553	△1,101	2,452	3,289	△1,020	2,269
期末	18,273	△8,592	9,681	18,426	△8,640	9,786
デリバティブ純損益						
期首	319	△109	210	△477	138	△339
未実現利益(△損失)当期発生額	△1,298	401	△897	△578	179	△399
実現額の当期損益への組替修正額	△107	34	△73	397	△123	274
当期純変動額	△1,405	435	△970	△181	56	△125
期末	△1,086	326	△760	△658	194	△464
合計(その他の包括利益(△損失)累計額)						
期首	△115,762	31,446	△84,316	△72,652	28,508	△44,144
未実現利益(△損失)当期発生額	31,988	△759	31,229	8,078	△878	7,200
実現額の当期損益への組替修正額	1,216	△376	840	1,117	△346	771
当期純変動額	33,204	△1,135	32,069	9,195	△1,224	7,971
非支配持分に帰属するその他の包括損失(△利益)	△174	—	△174	△119	—	△119
期末	△82,732	30,311	△52,421	△63,576	27,284	△36,292

なお、売却可能有価証券未実現損益の実現額の当期損益への組替修正額は、「その他費用(△収益)―純額―」に含まれている。退職年金債務調整額の実現額の当期損益への組替修正額は、退職給付費用および「その他費用(△収益)―純額―」に含まれている。デリバティブ純損益の実現額の当期損益への組替修正額は、「売上原価」および「その他費用(△収益)―純額―」に含まれている。税効果については、「法人税等」に含まれている。

J 金融商品の公正価額

第80期末および第81期第3四半期末現在、当社および子会社の有する金融商品の帳簿価額および見積公正価額は、次のとおりである。

	第80期末（百万円）		第81期第3四半期末（百万円）	
	帳簿価額	見積公正価額	帳簿価額	見積公正価額
(デリバティブ取引)				
為替予約取引：				
その他の流動資産	248	248	3,430	3,430
その他の流動負債	△3,141	△3,141	△2,187	△2,187
通貨オプション取引：				
その他の流動資産	2	2	—	—
その他の流動負債	△27	△27	—	—
商品スワップ取引：				
その他の流動資産	—	—	10	10
その他の流動負債	—	—	△1	△1

それぞれの金融商品の公正価額の見積りにあたって、実務的には次の方法および仮定を用いている。

なお、公正価値の階層分類である、レベル1・レベル2およびレベル3のそれぞれの定義については、「注記Ⅱ-L 公正価値の測定」に記載している。

(デリバティブ取引)

デリバティブ取引の公正価額は、当該取引契約を四半期末もしくは連結会計年度末に解約した場合に当社および子会社が受領するまたは支払う見積り額を反映しており、この見積り額には未実現利益または損失が含まれている。当社および子会社のデリバティブ取引の大半については、ディーラー取引価格が利用可能であるが、そうでないものについては、公正価額の見積りにあたり評価モデルを使用している。

なお、当社および子会社では、トレーディング目的のためのデリバティブ取引は行っていない。

また、デリバティブ取引の公正価値のレベル別情報は、「注記Ⅱ-L 公正価値の測定」に記載している。

(デリバティブ取引以外)

(1) 現金及び現金同等物、受取手形及び売掛金、施設借用保証金、支払手形及び買掛金・未払金

これらの公正価額は帳簿価額とほぼ等しいと見積っている。なお、これらの公正価値について、現金及び現金同等物はレベル1、それ以外はレベル2にそれぞれ分類している。

(2) 投資有価証券

公正価額は時価または類似証券の時価に基づいて見積り算定している。投資有価証券に含まれる持分証券には容易に確定できる市場価額のないものがあり、これらの公正価値の見積りは実務上困難である。

なお、投資有価証券の公正価値については、「注記Ⅱ-A 有価証券および投資」に、公正価値のレベル別情報は、「注記Ⅱ-L 公正価値の測定」に、それぞれ記載している。

K 金融派生商品とヘッジ活動

当社および子会社は、為替変動（主に米ドル、ユーロ）をヘッジするために為替予約取引および通貨オプション取引を、原材料価格変動（銅・銀）をヘッジするために商品スワップ取引を利用している。なお、当社および子会社は、トレーディング目的のためのデリバティブ取引は行っていない。また、当社および子会社は、デリバティブの契約相手による契約不履行の場合に生じる信用リスクにさらされているが、契約相手の信用度が高いため、そのような信用リスクは小さいと考えている。

キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定および認定された為替予約取引、通貨オプション取引および商品スワップ取引の公正価額の変動は、「その他の包括利益（△損失）累計額」として報告している。これらの金額は、ヘッジ対象資産・負債が損益に影響を与えるのと同一期間において、為替予約取引および通貨オプション取引については「その他費用（△収益）—純額—」として、商品スワップ取引については「売上原価」として損益に組替えられる。第81期第3四半期末現在、デリバティブ取引に関連して「その他の包括利益（△損失）累計額」に計上されたほぼ全額は今後12ヶ月以内に損益に組替えられると見込まれる。

第80期末および第81期第3四半期末現在における為替予約取引等の残高（想定元本）は、次のとおりである。

	第80期末（百万円）	第81期第3四半期末（百万円）
為替予約取引	102,169	116,346
通貨オプション取引	3,029	—
商品スワップ取引	—	128

第80期末および第81期第3四半期末現在におけるデリバティブの公正価値は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

資産

	科目	第80期末（百万円）	第81期第3四半期末（百万円）
為替予約	その他の流動資産	248	3,430
通貨オプション	その他の流動資産	2	—
商品スワップ	その他の流動資産	—	10

負債

	科目	第80期末（百万円）	第81期第3四半期末（百万円）
為替予約	その他の流動負債	△3,141	△2,187
通貨オプション	その他の流動負債	△27	—
商品スワップ	その他の流動負債	—	△1

第80期第3四半期連結累計期間におけるデリバティブの四半期連結損益計算書への影響額（税効果考慮後）は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失）に計上された未実現損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	539	△1,132
通貨オプション	△71	△0
商品スワップ	5	3

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

第80期第3四半期連結会計期間におけるデリバティブの四半期連結損益計算書への影響額（税効果考慮後）は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失）に計上された未実現損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	△837	△72
通貨オプション	△71	△0
商品スワップ	11	△1

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

第81期第3四半期連結累計期間におけるデリバティブの四半期連結損益計算書への影響額（税効果考慮後）は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失）に計上された未実現損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	△1,032	791
商品スワップ	13	△6

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

第81期第3四半期連結会計期間におけるデリバティブの四半期連結損益計算書への影響額（税効果考慮後）は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失）に計上された未実現損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	△403	284
商品スワップ	4	△10

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

L 公正価値の測定

FASB会計基準書第820号「公正価値の測定と開示」は、公正価値を測定日において市場参加者の間の秩序のある取引により資産を売却して受け取るであろう価格、または負債を移転するために支払うであろう価格と定義している。同基準書は、公正価値を測定するために使用するインプットを以下の3つのレベルに優先順位を付け、公正価値の階層を分類している。

レベル1・・・活発な市場における同一の資産または負債の市場価格。

レベル2・・・活発な市場における類似資産または負債の市場価格。活発でない市場における同一または類似の資産・負債の市場価格、観察可能な市場価格以外のインプットおよび相関関係またはその他の方法により観察可能な市場データから主として得られた、または裏付けられたインプット。

レベル3・・・資産または負債の公正価値測定に重要なインプットで、観察不能なインプット。

継続的に公正価値で測定される資産または負債

第80期末における継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	公正価値による測定額			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産				
投資有価証券				
持分証券	19,551	—	—	19,551
金融派生商品				
為替予約	—	248	—	248
通貨オプション	—	2	—	2
負債				
金融派生商品				
為替予約	—	3,141	—	3,141
通貨オプション	—	27	—	27

投資有価証券

投資有価証券は、主に上場株式である。活発な市場における同一資産の市場価格で公正価値を評価しており、観察可能であるためレベル1に分類している。

金融派生商品

金融派生商品は、為替予約である。外国為替レートおよび金利など観察可能な市場データを利用して公正価値を評価しているためレベル2に分類している。

非継続的に公正価値で測定される資産または負債

第80期末における非継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	損益計上額 (百万円)	公正価値による測定額			
		レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産					
投資有価証券	△345	—	—	52	52
長期性資産	△12,723	—	—	626	626
のれん	△105	—	—	—	—

第80期において、当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、大部分の資産を観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類している。これらのうち主な資産の公正価値は、将来キャッシュ・フローの割引現在価値を使用して評価している。

継続的に公正価値で測定される資産または負債

第81期第3四半期末現在における継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	公正価値による測定額			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産				
投資有価証券				
持分証券	25,314	—	—	25,314
金融派生商品				
為替予約	—	3,430	—	3,430
商品スワップ	—	10	—	10
負債				
金融派生商品				
為替予約	—	2,187	—	2,187
商品スワップ	—	1	—	1

投資有価証券

投資有価証券は、主に上場株式である。活発な市場における同一資産の市場価格で公正価値を評価しており、観察可能であるためレベル1に分類している。

金融派生商品

金融派生商品は、為替予約および商品スワップである。外国為替レートおよび金利など観察可能な市場データを利用して公正価値を評価しているためレベル2に分類している。

非継続的に公正価値で測定される資産または負債

第81期第3四半期末現在における非継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	損益計上額 (百万円)	公正価値による測定額			
		レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産					
投資有価証券	△59	—	—	48	48
長期性資産	△139	—	—	—	—

第81期第3四半期末現在において、当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、大部分の資産を観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類している。投資有価証券および長期性資産の公正価値は、将来キャッシュ・フローの割引現在価値を使用して評価している。

M コミットメントおよび偶発債務

コミットメント

当社および子会社におけるコミットメント残高は、主として情報処理運用業務における業務委託契約に関するものであり、その金額は、第80期末2,136百万円、第81期第3四半期末現在1,775百万円である。

信用リスクの集中

当社および子会社にとって、信用リスク集中の恐れがある金融商品は、主として短期投資および受取手形及び売掛金である。短期投資については、取引相手を信用度の高い金融機関としている。また、受取手形及び売掛金に関しては、売上高の約40%が日本国内に集中しているが、顧客の大半は優良で、業種も多岐にわたっているため、信用リスク集中の恐れは限られている。

保証債務

当社は従業員の銀行借入金について、その信用補完のために債務保証を行うが、第80期末および第81期第3四半期末現在においてなしである。

環境対策費

当社および子会社は、環境対策に関する費用について、債務発生の可能性が確からしく、かつ金額を合理的に見積ることができる場合に負債に計上している。環境対策費として負債に計上している金額は、第80期末630百万円、第81期第3四半期末現在616百万円である。

製品保証

当社および子会社は、ある一定期間において、提供した製品およびサービスに対する保証を行っている。第80期および第81期第3四半期連結累計期間における製品保証引当金の変動は次のとおりである。

	第80期 (百万円)	第81期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
期首残高	1,781	3,395
繰入額	2,814	929
取崩額（目的使用等）	△1,200	△1,024
期末残高	3,395	3,300

訴訟事項

当社および一部の子会社は、通常の事業活動から生じるいくつかの法的な申立ておよび訴訟を受けている。しかし、当社および当社の弁護士が現時点で入手しうる情報に基づくと、当社の取締役会はこれらの申立ておよび訴訟が四半期連結財務諸表に重要な影響を与えることはないと考えている。

N 配当に関する事項（株主資本関係等）

現金配当額は、翌事業年度の当初において開催される定時株主総会まで未承認であっても、それぞれの事業年度の利益処分として提示される額に従って連結財務諸表に計上している。

第81期第3四半期連結会計期間に行われた現金配当は、第81期第2四半期連結会計期間の剰余金処分として連結財務諸表に計上している。

○ 企業結合等

第80期第3四半期連結累計期間において該当事項はない。

第81期第3四半期連結累計期間における企業結合は次のとおりである。

(1) センテック株式会社グループ

当社は平成29年7月3日に当社の子会社であるオムロンセンテック株式会社を通じ、傘下7社の発行済株式100%を含むセンテック株式会社の産業用カメラ事業の一部資産および負債（以下ST社産業用カメラ事業）を、現金3,193百万円を対価とする方法で取得した。なお、ST社産業用カメラ事業の取得に関連して発生した費用（被取得企業の調査費用等）は重要ではない。

ST社産業用カメラ事業取得は、制御機器事業においてST社の高画質・高速伝送・小型化カメラ設計技術を取り込むことにより、当社のファクトリーオートメーションの技術をさらに進化させることを目的としている。取得した資産および負債の取得日における公正価額は次のとおりである。

	公正価額 (百万円)
流動資産	3,013
有形固定資産	18
投資その他の資産	1,561
流動負債	△1,366
固定負債	△33
純資産	△3,193

投資その他の資産には、この買収により計上したのれんおよび識別可能な無形資産がそれぞれ26百万円および1,455百万円含まれている。この買収に関して計上したのれんは、インダストリアルオートメーションビジネスに含まれている。第81期第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれているST社産業用カメラ事業の損益、当該企業結合のプロフォーマ情報については、重要ではない。

(2) Microscan Systems, Inc. グループ

当社は平成29年10月2日に当社の子会社であるOmron Management Center of Americaを通じ、傘下3社を含むMicroscan Systems, Inc.（以下MSグループ）の発行済株式100%を取得した。MSグループ株式の取得は、現金を対価とする方法により行われ、暫定的な金額調整後の対価は、17,499百万円である。なお、MSグループ取得は、制御機器事業におけるファクトリーオートメーション技術の開発と販売能力強化を主な目的としている。取得した資産および負債の取得日における公正価額は次のとおりである。

	公正価額 (百万円)
流動資産	2,344
有形固定資産	126
投資その他の資産	17,196
流動負債	△924
固定負債	△1,243
純資産	△17,499

なお、支配獲得日における取得資産および引継負債の公正価額は現在算定中であり、上記の金額は変更される可能性がある。投資その他の資産には、この買収により計上したのれんおよび識別可能な無形資産がそれぞれ11,003百万円および6,179百万円含まれている。この買収に関して計上したのれんは、インダストリアルオートメーションビジネスに含まれている。また、こののれんは税務上損金に算入されない。第81期第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれているMSグループの損益、当該企業結合のプロフォーマ情報については、重要ではない。

P 事業売却

第80期第3四半期連結累計期間における事業売却は次のとおりである。

(1) OMRON OILFIELD AND MARINE, INC.

当社は平成28年5月31日に当社の子会社であるOMRON ELECTRONICS, LLC の100%子会社であるOMRON OILFIELD AND MARINE, INC. の全株式を第三者であるSchlumberger社に譲渡した。OMRON OILFIELD AND MARINE, INC. はインダストリアルオートメーションビジネスに含まれていた。この売却により、第80期第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書上、「その他費用（△収益）—純額—」に3,530百万円の事業売却益が計上されている。

(2) オムロン コーリン株式会社

当社は平成28年6月9日に当社の子会社であるオムロン ヘルスケア株式会社の100%子会社であるオムロン コーリン株式会社の全株式をフクダ電子株式会社に譲渡する株式譲渡契約書を締結した。平成28年度中の譲渡完了を予定していたため、オムロン コーリン株式会社の資産および負債を、第80期第2四半期末において、四半期連結貸借対照表上、売却予定資産および売却予定負債に分類していた。これらについて、売却費用控除後の公正価値への評価減を行った結果、第80期第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書上、「その他費用（△収益）—純額—」に275百万円の減損損失が計上されている。平成28年12月1日に株式譲渡が完了した結果、第80期第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書上、「その他費用（△収益）—純額—」に156百万円の事業売却益が計上されている。オムロン コーリン株式会社はヘルスケアビジネスに含まれていた。

第81期第3四半期連結累計期間における事業売却は次のとおりである。

オムロン クレジットサービス株式会社

当社は平成29年5月15日に当社の子会社であるオムロン クレジットサービス株式会社の全株式を、愛のタクシーチケット株式会社に譲渡する株式譲渡契約書を締結した。平成29年8月1日に当該株式譲渡が完了したが、この売却に伴い発生する損益は軽微である。なお、オムロン クレジットサービス株式会社は、セグメント情報の消去調整他に含まれていた。

Q セグメント情報

【オペレーティング・セグメント情報】

FASB会計基準書第280号は、企業のオペレーティング・セグメントに関する情報の開示を規定している。オペレーティング・セグメントは、企業の最高経営意思決定者が経営資源の配分や業績評価を行うにあたり通常使用しており、財務情報が入手可能な企業の構成単位として定義されている。

当社は取扱製品の性質や社内における事業の位置付け等を考慮した上で、オペレーティング・セグメントに関する情報として、「インダストリアルオートメーションビジネス」、「エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス」、「オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス」、「ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス」および「ヘルスケアビジネス」の5つのオペレーティング・セグメントを区分して開示している。また、その他のオペレーティング・セグメントは「その他」に集約して開示している。

各セグメントの主要な製品は次のとおりである。

- (1) インダストリアルオートメーションビジネス(制御機器事業)
……プログラマブルコントローラ、モーションコントロール機器、センサ機器、検査装置、セーフティ用機器、産業用ロボット、レーザー微細加工装置、制御専用機器等
 - (2) エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス(電子部品事業)
……リレー、スイッチ、コネクタ、アミューズメント機器用部品・ユニット、業務民生用センサ、顔認識ソフトウェア、画像センシングコンポ(HVC:ヒューマンビジョン コンポーネンツ)等
 - (3) オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス(車載事業)
……ボディ電装制御コントローラ、電動パワーステアリングコントローラ、パッシブエントリープッシュエンジンスタータシステム、キーレスエントリーシステム、パワーウインドウスイッチや各種車載用スイッチ、電気自動車向け電力変換ユニット・電圧監視ユニット等
 - (4) ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス(社会システム事業)
……駅務システム、交通管理・道路管理システム、カード決済サービス、安心・安全ソリューション、エネルギーマネジメント事業、関連メンテナンス事業等
 - (5) ヘルスケアビジネス(ヘルスケア事業)
……電子血圧計、電子体温計、体重体組成計、歩数計・活動量計、電動歯ブラシ、ねむり時間計、低周波治療器、マッサージャ、血糖計、ネブライザ、酸素発生器、心電計、動脈硬化検査装置、内臓脂肪計等
 - (6) その他
……ソーラーパワーコンディショナ、蓄電システム、電力量計測機器、電力保護機器、無停電電源装置、電子機器の開発・生産受託サービス、MEMS(※)技術を用いた圧力センサ、サーマルセンサ、フローセンサ、マイクロフォン、アナログIC、半導体生産受託サービス、液晶用高品質バックライトユニット等
- (※)MEMS:マイクロ・エレクトロ・メカニカル・システムズの略称)

セグメント情報の会計方針は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従っている。

各事業セグメントに直接関わる収益および費用は、それぞれのセグメントの業績数値に含め表示している。特定のセグメントに直接帰属しない収益および費用は、経営者がセグメントの業績評価に用いる当社の配分方法に基づき、各事業セグメントに配分されるかあるいは「消去調整他」に含めて表示している。

なお、「セグメント利益またはセグメント損失(△)」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費及び一般管理費」および「試験研究開発費」を控除したものを表示している。

第80期第3四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	239,992	68,882	96,911	30,883	75,991	52,272	564,931	3,756	568,687
②セグメント間の内部売上高	3,894	35,468	368	2,976	204	7,439	50,349	△50,349	—
計	243,886	104,350	97,279	33,859	76,195	59,711	615,280	△46,593	568,687
営業費用	206,819	97,202	92,397	37,366	68,614	61,021	563,419	△40,547	522,872
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	37,067	7,148	4,882	△3,507	7,581	△1,310	51,861	△6,046	45,815

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

3 経営管理区分の見直しにより、第81期より、「ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス」傘下の一部を「その他」の事業セグメントに含めて開示している。これに伴い、第80期第3四半期連結累計期間に係るセグメント情報を新管理区分に組替えて表示している。

第81期第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	292,053	77,717	97,553	30,959	82,033	41,641	621,956	2,897	624,853
②セグメント間の内部売上高	4,863	42,479	1,382	3,015	202	7,512	59,453	△59,453	—
計	296,916	120,196	98,935	33,974	82,235	49,153	681,409	△56,556	624,853
営業費用	241,674	109,368	94,660	37,321	72,055	50,277	605,355	△44,867	560,488
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	55,242	10,828	4,275	△3,347	10,180	△1,124	76,054	△11,689	64,365

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第80期第3四半期連結会計期間（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	82,011	21,631	33,557	11,691	27,158	19,776	195,824	1,271	197,095
②セグメント間の内部売上高	1,348	12,667	135	985	40	2,824	17,999	△17,999	—
計	83,359	34,298	33,692	12,676	27,198	22,600	213,823	△16,728	197,095
営業費用	69,297	32,107	31,304	13,071	24,347	21,666	191,792	△14,621	177,171
セグメント利益 またはセグメント 損失 (△)	14,062	2,191	2,388	△395	2,851	934	22,031	△2,107	19,924

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

3 経営管理区分の見直しにより、第81期より、「ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス」傘下の一部を「その他」の事業セグメントに含めて開示している。これに伴い、第80期第3四半期連結会計期間に係るセグメント情報を新管理区分に組替えて表示している。

第81期第3四半期連結会計期間（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	98,574	25,740	33,409	11,440	30,899	13,255	213,317	1,009	214,326
②セグメント間の内部売上高	1,709	14,638	519	1,002	72	2,688	20,628	△20,628	—
計	100,283	40,378	33,928	12,442	30,971	15,943	233,945	△19,619	214,326
営業費用	83,072	36,742	32,274	12,971	26,982	16,640	208,681	△15,367	193,314
セグメント利益 またはセグメント 損失 (△)	17,211	3,636	1,654	△529	3,989	△697	25,264	△4,252	21,012

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第80期第3四半期連結累計期間および第81期第3四半期連結累計期間ならびに第80期第3四半期連結会計期間および第81期第3四半期連結会計期間におけるセグメント利益またはセグメント損失(△)の合計額と法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益との調整表は次のとおりである。

項目	第80期第3四半期 連結累計期間 (百万円)	第81期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
セグメント利益またはセグメント損失(△)の合計額	51,861	76,054
その他費用(△収益)―純額―	1,740	1,855
消去調整他	△6,046	△11,689
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益	44,075	62,510

(注) 第80期第3四半期連結累計期間の「その他費用(△収益)―純額―」には、インダストリアルオートメーションビジネスに係る事業売却益3,530百万円、ヘルスケアビジネスに係る売却予定資産の減損損失275百万円、ヘルスケアビジネスに係る事業売却益156百万円、その他のセグメントに係る長期性資産の減損損失11,930百万円が含まれている。

項目	第80期第3四半期 連結会計期間 (百万円)	第81期第3四半期 連結会計期間 (百万円)
セグメント利益またはセグメント損失(△)の合計額	22,031	25,264
その他費用(△収益)―純額―	△505	△456
消去調整他	△2,107	△4,252
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益	20,429	21,468

(注) 第80期第3四半期連結会計期間の「その他費用(△収益)―純額―」には、その他のセグメントに係る長期性資産の減損損失345百万円、ヘルスケアビジネスに係る事業売却益156百万円が含まれている。

R 重要な後発事象

当社はFASB会計基準書第855号「後発事象」に基づき、後発事象の評価を行っている本四半期報告書が発行可能な状態となった平成30年2月9日現在、該当事項はない。

2 【その他】

平成29年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

- 1 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・8,109百万円
- 2 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・・・38円00銭
- 3 支払請求の効力発生日および支払開始日・・・・・・・・平成29年12月4日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行った。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

オムロン株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 大西 康弘
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 玉井 照久
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 池畑 憲二郎
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオムロン株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項I参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項I参照）に準拠して、オムロン株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※ 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。